

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から Vol.36

昨年のノーベル賞は、コロナウィルスの混乱の中、例年とは違う様相を呈しました。ただ、その中には、例年通り、必ず未来につながる発明・発見・指針はあるものです。明るい未来につながりますように！ノーベル賞の精神に思いをさせ、2冊、紹介します。

『私はマララ/武器より一冊の本をください』 マララ・ユスフザイ

今から9年前、衝撃的なニュースが世界中を震撼させました。わずか15歳の少女が、通学途中、スクールバスの中でタリバンに襲撃され、頭部を銃で撃たれたのです。襲撃された理由はただ一つ。彼女が「女性にも、教育のチャンスを与えてほしい。」そう訴え続けたからです。その後、奇跡的に回復したマララさんは、それでもひるむことなく訴え続けます。「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが世界を変えるのです。」この言葉は、3年生の道徳の教科書にも取り上げられています。（「本とペンで世界を変えよう」）このマララさんの勇敢な行動に対し、2014年ノーベル平和賞が贈られました。そのとき、マララさんは、まだ17歳。史上最年少の受賞者です。図書室のカウンター前、世界の本を紹介するコーナー（丸テーブル）に置いてあります。ぜひ、読んでみてください。



『ノーベル賞100年の歩み』 ポプラ社

全7巻のシリーズです。中から、「7 ノーベル賞を受賞した日本人」を紹介します。日本人受賞者のうち、ノーベル文学賞に輝く作家、ご存じですか？「伊豆の踊子」等で有名な川端康成さん、「飼育」等の著作のある大江健三郎さん、の二人です。「日本人の美意識」、「混沌とした時代を生き抜く新しい道」を示したことが、評価されました。図書室にも置いてあるので、手に取ってみてください。余談ですが、毎年恒例行事のように、今年のノーベル文学は・・・「村上春樹」さん予想がなされ、ニュースなどでも取り上げられています。残念ながら（ご本人が、そう思っているかは定かではありませんが、）昨年も受賞は叶いませんでした。最近、「一人称単数」という短編集も出版され、話題です。「羊をめぐる冒険」など、いく冊か、図書室にもあります。声をかけてください。

最後におまけです。本家ノーベル賞をしのぐ？話題をさらう「イグノーベル賞」、ご存じですか？2020年現在、日本人は、なんと14年連続で受賞しています！「イグノーベル賞」とは、本人たちは、いたってまじめに研究しているのですが、なぜか世間を「笑わせ、考えさせる」研究に贈られる賞です。（ちなみに賞金は・・・0、授賞式にも自腹で行きます！）昨年度の受賞は、京都大学の西村先生の研究「ワニにヘリウムガスを吸わせ、ドナルドダックのような声で鳴かせる。」です。この研究で、ワニも、人と同じ仕組みで発声していることがわかりました！（だからといって・・・）ちなみに、2013年「玉ねぎを切ると涙が出る仕組み」の研究にも贈られていますが、この研究は、情報大学の近くにある「ハウス食品開発研究所」が行ったものです！びっくりです！